

一般質問

一般質問は、質問と答弁がかみ合うことで分かりやすく充実した議論となるよう、原則としてあらかじめ通告しておくこととなっています。

持続可能なインフラの維持管理について

新政たかやま

石原正裕



問 人口減少と日本一広い市域におけるインフラの維持管理は、今後の大きな課題となる。スマートフォン等のカメラ機能など、画像（位置情報付き）を活用した、市民の皆様から、インフラ損傷情報を提供いただくシステムを構築する考えは。

答 定期的なパトロールや、市民の皆様からの電話等で損傷状況を把握し、修繕等を行っているが、市道延長も約1860kmに及び、把握に困難な場合がある。情報提供のあり方としてインフラ損傷情報提供システムの構築は業務の効率化を図るうえで有意義と捉える。



一体的に子ども政策を進める新しい仕組みを

新政たかやま

西本泰輝



問 改正児童福祉法では、市区町村は全ての妊産婦、子育て世帯、子どもを一体的に相談支援をする「こども家庭センター」の設置に努めることとしている。市でも現行の組織を見直し、一体的に子ども政策を進める新しい仕組みや体制をつくるべきと考えるが市の見解は。

答 子どもの成長段階や特性に応じた、切れ目のない支援やサービスをわかりやすく一つの窓口で提供しながら、組織に横串を刺した支援が可能となるような体制の整備に向けて、現在、先進都市の事例なども参考にして関係課で具体的な協議を進めている。



神社や史跡などの文化財を守っていこう！

新政たかやま

西田 稔



問 新型コロナウイルス感染症の影響により、祭礼行事の存続が危ぶまれたが、関係者の努力により、浦安の舞、獅子舞、鬪鶏楽、雅楽、太々神楽等を含め再開ができてきている。これまで以上に神社や史跡保存会への支援が必要と考えるが市の見解は。

答 伝承芸能保存団体補助金による保存団体への支援を継続する。また民間助成団体が行う助成事業の斡旋、協力、さらには文化庁が行う地域文化財総合活用推進事業（地域伝統行事・民俗芸能等継承基盤整備）を活用し支援をしていきたいと考えている。



中部縦貫自動車道の中間インター決定後は

新政たかやま

渡辺 甚一



問 中間インターが出来れば、高山市の東の玄関口となり、市内の渋滞緩和につながり、観光案内や地域の農産物等販売などによって地域の活性化にもつながる。道の駅のような施設も必要と考えるが、調査等していくべきではないか。

答 市内中心部への流入車両の分散による渋滞緩和や緊急搬送の迅速化だけでなく、出入り口周辺が観光の目的の一つとして注目されるよう、地域の皆様からもご意見をいただき、当該地域の活性化につながる検討をしている。拠点施設整備の必要性など、地元の皆様と協力しながら検討していく。

